

第24回日本・スペイン・シンポジウム
「日本とスペインのグローバルな協力の姿を求めて」
2024年10月22日（火）～24日（木）
於：香川県

日程・プログラム案

※日程、プログラム、出席者等は、すべて現時点（2024年10月16日）での想定。今後の調整により変更の可能性あり。

1 日程

22日（火）

午前～午後	関係者到着
13:30 - 17:15	視察（中西珍松園、栗林公園）
18:45 - 20:45	香川県主催夕食会

23日（水）

08:30 - 09:00	受付
09:00 - 09:30	開会式
09:30 - 11:00	セッション1
11:00 - 11:30	コーヒーブレイク
11:30 - 13:15	セッション2
13:30 - 14:45	外務省主催昼食会
15:00 - 16:30	セッション3
16:30 - 16:35	西日財団賞受賞者発表
16:35 - 16:50	閉会式
19:00 - 21:00	日本側座長主催夕食会

24日（木）

08:50 - 11:45	視察（直島）
11:50 - 13:50	日本側座長主催昼食会（直島）
14:30	直島発高松行きフェリー出発

2 プログラム（10月23日（水））

日本とスペインが長期的視点に立って、両国の相互理解を促進し、協力関係を強化するために、1997年に第1回の日本・スペイン・シンポジウムが開催された。これまでに23回のシンポジウムが実施されており、時宜に応じたテーマについての知的な意見交換のためのプラットフォームを作ってきた。法の支配に基づく自由で開かれた国際秩序の根幹が揺らぐ中、日本とスペインの多層的な協力は、かつて無いほどに重要になっている。今回のシンポジウムでは、どのように日本・スペイン関係を深化させていくか、中長期的戦略を議論する。

09:00 – 9:30 開会式

【挨拶】

- ・日本外務省代表
- ・ディエゴ・マルティネス・ベリオ スペイン外務省外交・グローバル問題担当長官
- ・池田豊人 香川県知事
- ・大西秀人 高松市長
- ・アンヘレス・デルガド スペイン側座長（西日財団理事長）
- ・佐藤義雄 日本側座長（経団連前欧州地域委員長兼住友生命保険相互会社特別顧問）

9:30 – 11:00 セッション1：国際社会の平和と安定に向けた取組

ロシアによるウクライナ侵略は今なお続き、中東情勢も一層不安定化する中、国際社会の平和と安定をどのように確保し、経済的繁栄の環境を整えるかは、各国が知恵を出し合って解決すべき最優先課題となっている。当シンポジウムが始まった90年代とは異なり、欧州・大西洋とインド太平洋の安全保障環境は今や完全に不可分になっている。ウクライナ侵略が始まって2年以上が経つ中、ロシアによる北朝鮮製弾道ミサイルの取得及びそのウクライナへの使用はそのことを顕著に示している。北朝鮮による核・ミサイル活動の進展、東・南シナ海等における領域に関する一方的な現状変更及びその試み、海賊、テロ、大量破壊兵器の拡散、自然災害等の様々な種類と烈度の脅威や課題が存在する。加えて、国際社会の分断や対立が深まる中で、いわゆる「グローバルサウス」と呼ばれる途上国・新興国と一体となって諸課題に対応していくために我々同志国が努力を倍加することもまた重要になっている。

【Key Questions】

- ◇ グローバル・サウスの国々への影響力発揮のため、日本とスペインは、それぞれが強みを有する地域に対してどのように働きかけを行ってきており、どのようなグッドプラクティスがあるか。
- ◇ 日本とスペインは、政治、安全保障、経済、パブリック・ディプロマシー、外交など様々な分野におけるグローバル・サウスへの対応にあたり、どのような協力をしていくことができるか。

【モデレーター】田口精一郎 外務省欧州局参事官

【パネリスト】

(日本側)

- ① 伊藤元重 東京大学名誉教授
- ② 竹中治堅 政策研究大学院大学教授

(スペイン側)

- ① ルック・ヴィダグ カタルーニャ・オベルタ大学シニア講師 (国際関係及び東アジア専門)
- ② ヘオルヒナ・イゲラス アジア・フォーラム ゼネラル・マネージャー

11:00 – 11:30 コーヒーブレイク

11:30 – 13:15 セッション2 : グローバル市場での日本とスペインのビジネス協力

現下の国際情勢を踏まえ、日本とスペインは、経済安全保障上の課題での連携を深める必要があるが、同時に両国間の貿易投資の促進努力を倍加し、かつ、その一環として、グローバル市場での両国企業の協業を政府としてあらゆるツールを駆使して後押ししていくことが喫緊の課題。日本・スペイン企業間の協働において将来有望なグリーン分野及びインフラ分野を中心に議論を進める。

【Key questions】

- ◇ 日本・スペイン両国企業間のビジネスを促進するための課題と戦略とは。
- ◇ グローバル市場における日本・スペイン企業間の協力の可能性と課題とは。

【モデレーター】佐藤義雄 日本側座長 (経団連前欧州地域委員長兼住友生命保険相互会社特別顧問)

【11:30-12:20 サブセッション1 グリーン分野】

【パネリスト】

(日本側)

眞邊勝仁 リニューアブル・ジャパン株式会社代表取締役社長

(スペイン側)

矢口慶祐 イベルドロラ・リニューアブルズ・ジャパン株式会社開発部長 (洋上)

【12:25-13:15 サブセッション2 インフラ分野】

【パネリスト】

(日本側)

藤原靖久 建ロボテック株式会社 経営管理部マネージャー

(スペイン側)

ルベン・カンバ アクシオナ社 インフラ担当東南アジアカントリー・マネージャー

15:00 – 16:30 セッション3 文化・芸術・建築交流

風光明媚な瀬戸内海は、多島美を誇り「世界の宝石」とも称されるが、開催地である香川県では、瀬戸内海の島々に現代アート作品が点在しているほか、高松市の香川県庁舎（丹下健三設計）や直島町の地中美術館（安藤忠雄設計）など、著名な建築家による建築物が多数存在している。また、高松市の中心部には、国の特別名勝に指定されミシュラン・グリーンガイド・ジャポンで最高ランクの3ツ星を獲得した大名庭園「栗林公園」が存しており、こうした文化遺産や現代アートを活用した地域活性化に取り組んでいる。

一方、2026年の完成を見込んでいる、世界的にアートとしても建築としても有名なスペインのサグラダ・ファミリアは日本人にも非常に人気が高く、昨年から本年の日本での「ガウディとサグラダ・ファミリア展」は、上皇上皇后両陛下も御鑑賞された、両国の文化交流の象徴とも言えるもの。日本の3都市での巡回展に、50万人以上を動員する盛況ぶりとなった。アートや建築を通じた両国間の交流の一層の拡大の可能性について模索する。

【Key questions】

- ◇ アート・建築を活用した地域活性化やインバウンド観光振興のグッドプラクティスとは。
- ◇ 日本とスペインの文化芸術・建築等における協力の可能性とは。

【モデレーター】 ビクトル・アンドレスコ インスティトゥト・セルバンテス東京 館長

【パネリスト】

（日本側）

- ① 宇野恵信 公益財団法人福武財団前事務局長/瀬戸内国際芸術祭担当特命部長
- ② 橋本和幸 東京藝術大学美術学部教授/芸術未来研究場 瀬戸内海分校 プロジェクトリーダー

（スペイン側）

- ① タレック・アッバール 芸術家
- ② サラ・カタラン The Over Art Platform (Brooklyn-Barcelona) アートキュレーター

16:30-16:35 西日財団賞受賞者発表

16:35-16:50-閉会式

【挨拶】

- ・佐藤義雄 日本側座長
- ・アンヘレス・デルガド スペイン側座長